

『たすけ』の気まぐれコラム（第六回）

こんにちは『たすけ』です。今回は遮熱のお話の最終回です。

前回までにお話した遮熱の方法以外に、軒(のき)や庇(ひさし)による遮熱方法があります。軒や庇は壁から出っ張った屋根形状のものを言いますが、夏と冬による太陽高度を利用した日本古来からある遮熱方法です。

日本の夏は希にみる高温多湿環境で、汗が蒸発しにくい為「暑苦しい」「蒸し暑い」といった生活しにくい季節となっています。その為、「徒然草」で吉田兼好が「家の作りようは、夏を旨とすべし」と言ったように、**日本家屋は夏をいかに快的にすごせるか＝いかに日射を防ぐかを重点**としてきました。深い軒や厚い茅葺(かやぶき)屋根はその現れです。

太陽高度は夏・冬で実に47° も違います。

(東京の南中高度は 夏:77.8° 冬:30.8°)

これを利用することで、冬は日射を取り入れ、夏は遮蔽することが可能となっています。

ただしこれは南面にのみ通用する話で、**水平射が当る東面・西面ではやはり開口部遮蔽を考慮しないわけにはいきません。**

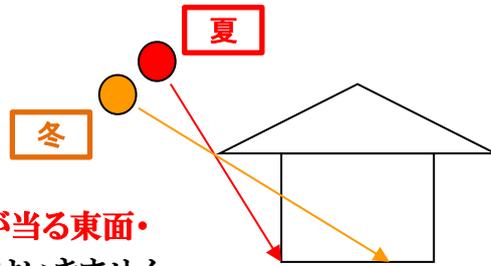
※ちなみに昔の家屋では床の間(窓が無い部屋＝遮光部屋)が西面に設置されていました。

遮熱の原理原則はガラスです。日射環境(隣家や近隣のビルや山など)によって遮熱対策の有無を選択しても構いませんが、冷暖房効果も高いので、**できるだけ多くの窓に『遮熱高断熱Low-E複層ガラス』を設置することをお勧め**します。

プラスαとして、東・西面には外部遮熱ロールスクリーン、台風対策を考慮するなら窓シャッターを追加設置しましょう。

快適性が格段にアップすることに加え、冷暖房費用がかなり抑えられますので、**美的リフォームと比べてコストパフォーマンスが高い**こと間違いなしです。

今回は玄関リフォームについてお話します。お楽しみに。



後付窓シャッター



外付ロールスクリーン
ラクシェード

